



令和元年6月11日

「医療データ人材育成拠点形成事業」の選定結果

「医療データ人材育成拠点形成事業」について、2件の事業の選定を決定しましたので、お知らせいたします。

1. プログラムの目的

本プログラムは、医療現場から大規模に収集される多様なデータの利活用を推進し、質の高い医療を実現するため、医療データの活用基盤を構築・運営する人材や医療データを利活用できる人材を育成することを目的とします。

2. 審査状況

医学部を置く各国公私立大学長宛に公募を行い、5件の申請を受け付けた後、「医療データ人材育成拠点形成推進委員会」における審査を踏まえ、この度、別添1のとおり2件の事業を選定しました。

3. その他

医療データ人材育成拠点形成推進委員会（委員長：福井 次矢（聖路加国際大学長））から、今回の選定について別添2のとおり所見が述べられました。

<本件に関する問合せ先>

高等教育局医学教育課

大学病院支援室病院第二係 高木、柿原

電話 03-5253-4111 (2578)

03-6734-2578 (直通)

医療データ人材育成拠点形成事業 選定結果一覧

No	区分	代表校名	連携校名	事業名
1	国	東京大学	筑波大学、富山大学、自治医科大学	医療リアルワールドデータ活用人材育成事業
2	国	京都大学	大阪大学、神戸大学、滋賀大学、鳥取大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、兵庫医科大学、関西医科大学、近畿大学	関西広域 医療データ人材教育拠点形成事業

令和元年6月11日

医療データ人材育成拠点形成推進委員会 所見

「医療データ人材育成拠点形成事業」では、複数の大学が連携し、それぞれの強みや特色を生かして、医療データの利活用を推進できるトップレベルの人材を育成する拠点を形成することを目的として、公募しました。

公募の結果、申請のあった5件の事業において、教育プログラム・コースや、事業の運営体制・マネジメント体制・連携体制及び事業の継続・普及に関する構想等について、推進委員会による書面審査、面接審査、合議審査を実施し、特に優れた2件の事業を選定しました。

今回、選定された大学は各取組とも、実現性が高く、創意工夫されたものとなっておりますが、委員会が求めた改善に関するコメントについては着実に改善し、計画を確実かつ迅速に実行していただきたいと考えます。

また、選定された各大学には、我が国における医療の質向上を担う取組を実施するという決意を持って、取り組んでいただくとともに、下記の点を期待します。

- ・常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療界・産業界のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと
- ・代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと

今回、特徴的なプログラムであっても、事業の構想・計画の具体性の観点等から、相対比較の結果、残念ながら選定に至らなかった取組がありました。選定されなかった各大学においては、本委員会から申請いただいた事業に対する所見をお伝えしますので参考にさせていただくとともに、今後も本プログラムの趣旨を生かした人材育成に取り組んでいただくことを強く期待します。

医療データ人材育成拠点形成推進委員会
委員長 福井 次矢

医療データ人材育成拠点形成推進委員会委員名簿

いしかわ 石川	ひろみ 広己	公益社団法人日本医師会常任理事
いもと 井本	まさかつ 昌克	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 臨床研究・治験基盤事業部長
きくち 菊池	ひろあき 浩明	明治大学総合数理学部教授
くさの 草野	たかふみ 隆史	一般社団法人データサイエンティスト協会代表理事
すぎやま 杉山	しげお 茂夫	公益社団法人日本歯科医師会常務理事
○ ふくい 福井	つぐや 次矢	聖路加国際大学長
やまがた 山縣	ぜんたろう 然太郎	山梨大学大学院総合研究部医学域教授
わたなべ 渡邊	だいき 大記	公益社団法人日本薬剤師会常務理事

計8名（○：委員長）

五十音順（敬称略）

医療データ人材育成拠点形成推進委員会の所見

令和元年6月11日

医療データ人材育成拠点形成推進委員会 所見

「医療データ人材育成拠点形成事業」では、複数の大学が連携し、それぞれの強みや特色を生かして、医療データの利活用を推進できるトップレベルの人材を育成する拠点を形成することを目的として、公募しました。

公募の結果、申請のあった5件の事業において、教育プログラム・コースや、事業の運営体制・マネジメント体制・連携体制及び事業の継続・普及に関する構想等について、推進委員会による書面審査、面接審査、合議審査を実施し、特に優れた2件の事業を選定しました。

今回、選定された大学は各取組とも、実現性が高く、創意工夫されたものとなっておりますが、委員会が求めた改善に関するコメントについては着実に改善し、計画を確実にかつ迅速に実行していただきたいと考えます。

また、選定された各大学には、我が国における医療の質向上を担う取組を実施するという決意を持って、取り組んでいただくとともに、下記の点を期待します。

- 常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療界・産業界のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと
- 代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと

今回、特徴的なプログラムであっても、事業の構想・計画の具体性の観点等から、相対比較の結果、残念ながら選定に至らなかった取組がありました。選定されなかった各大学においては、本委員会から申請いただいた事業に対する所見をお伝えしますので参考にさせていただくとともに、今後も本プログラムの趣旨を生かした人材育成に取り組んでいただくことを強く期待します。

医療データ人材育成拠点形成推進委員会
委員長 福井 次矢

お問合せ先

高等教育局医学教育課

大学病院支援室病院第二係

電話番号：03-5253-4111(代表)(内線2578)

(高等教育局医学教育課)

-- 登録：令和元年06月 --

Copyright (C) Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

**医療データ人材育成拠点形成事業
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	1
代表校名 (連携校名)	東京大学 (筑波大学、富山大学、自治医科大学)		
事業名	医療リアルワールドデータ活用人材育成事業		
事業責任者	大学院医学系研究科長・医学部長 齋藤 延人		
事業の概要			
<p>電子カルテシステムの普及やデータ収集基盤の社会的整備が進み、大規模な医療データの創出が進んでいるが、この大規模データから知見を得て、国民の健康課題の解決に資することが必須である。しかし、医療現場から創出される大規模医療リアルワールドデータ（RWD）を適切に解析するためには高い専門性を持って意味あるデータを抽出、形成し、課題にマッチしたデータ分析を行える総合力と実践力を有する人材の育成が喫緊の課題である。そこで本事業では、大規模医療 RWD について 1) データ特性・意義やバイアスを理解し、2) データ標準化と変換及びクレンジングにより解析可能な形式のデータベースに構築し、3) 具体的な医療課題解決と知見創成に必要なデータ処理技術を習得し、4) それを自ら実践でき指導者層にもなりうる人材を、種々の医療生データを素材として実践的技術と知識を修得できる教育コースを設置し、高度な医療人材の育成を推進する。</p>			
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○履修科目や教育内容が実践点的で本格的なものとなっており、評価できる。</p> <p>○匿名加工医療情報公正利用促進機構と連携し、次世代医療基盤法に沿った匿名加工医療情報を扱う点が評価できる。</p> <p>○各大学の特徴をプログラムに反映する等連携体制が緻密であり、事業の継続が確保されている点が評価できる。</p> <p>○インテンシブコースでは、一般履修コースと同じ科目構成から選択した短期集中型になっており、能率的な実効性が期待できる。</p> <p>●事業継続に係るバーチャルな修士課程の開講やオンライン教材の知財化による対価収入についての具体的な計画が示されていない。</p> <p>●対象者の受講環境等への配慮が期待される。</p>			

**医療データ人材育成拠点形成事業
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	2
代 表 校 名 (連 携 大 校 名)	京都大学（大阪大学、神戸大学、滋賀大学、鳥取大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、兵庫医科大学、関西医科大学、近畿大学）計 11 大学		
事 業 名	関西広域 医療データ人材教育拠点形成事業		
事 業 責 任 者	大学院医学系研究科長 岩井 一宏		
事 業 の 概 要			
<p>本拠点形成事業では、次世代医療基盤や保健医療データプラットフォームに蓄積されるデータを活用し、医療データサイエンスの国際的牽引役を担えるよう本邦の医療データサイエンスを発展させるために、医療データが生まれてから活用されるまでの情報流の始点から終点までを確実に支え、正しく統制できる人材の育成を行う。具体的には、関西健康・医療創生会議の元に集う関西の大学各々の強みを活かし、代表機関である京都大学が取り纏める修士レベルの基本プログラムと、創生会議が関西広域連合（官）と関西経済連合会（産）のニーズに応じて参加各大学（学）に開発させて提供するインテンシブプログラムを通じて、医療データ利活用基盤を構築・運営できる「基盤人材」、データを適切に利活用できる「活用人材」、及び、医療データ活用の全体を律し、社会的コンセンサスの醸成する「統制人材」を育成し、本邦医療データサイエンスの発展を支えることを目指す。</p>			
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○データサイエンス学部を擁する滋賀大学をはじめとする複数大学との連携のほか、NDB 解析事業に従事する研究者の参画等、実践的な教育・研修が期待できる。</p> <p>○一般社団法人ライフデータイニシアティブ等と連携することで、次世代医療基盤法に沿った匿名加工医療情報を扱う点が評価できる。</p> <p>○産官学連携会議体の下に事業の運営調整を行う事務局を置くことで、産官のニーズを適切に反映した人材育成を行うことは、評価できる。</p> <p>●主要講座の継続が概算要求ベースとなっている等、事業の継続に関して懸念がある。</p> <p>●連携校との連携体制が不明確であり、指導方針や指導責任などが散漫にならないか懸念がある。</p>			